

芸 術

1 学習指導及び学習指導の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

芸術科の目標は、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することである。そのためには、主体的に芸術の学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うなど、芸術科の学習で学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方（諮問）」（令和6年12月25日）において、学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない生徒が多くなっていることが課題として指摘されており、主体的な学びを実現する学習指導の一層の工夫が求められている。具体的には、生活の中にある身近な作品を教材とするなど生徒が興味・関心をもつ学習課題の工夫や、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面の工夫などが考えられる。

次の表は、芸術科の各科目における生徒の主体的な学びを実現するための学習・指導を改善・充実するための視点である。

「主体的な学び」を実現する学習・指導の改善・充実の視点	
音楽 I の 例	①音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させること。 ②音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程でもったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどう影響を及ぼしたのかについて考えさせること。 ③上記について、次の学びにつながるよう、生徒に振り返らせること。
美術 I の 例	①主題を生成したり構想したりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩などの造形の要素の動きなどに意識を向けて考えさせること。 ②自己の生成した主題や対象の見方や感じ方を大切に、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図ること。 ③上記について、次の学びにつながるよう、生徒に振り返らせること。
工芸 I の 例	①思いや願いをもち、自らが発想したり構想したりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩、素材などの造形の要素の動きなどに意識を向けて考えさせることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えさせること。 ②自己の思いや願い、対象の見方や感じ方を大切に、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図ること。 ③上記について、次の学びにつながるよう、生徒に振り返らせること。
書道 I の 例	①生徒の作品の構想段階から完成までの作品の変容を実感的に確認することで、新たな見通しをもたせ次の表現へと展開していく活動を行わせること。 ②書のもつよさや美しさを創造的に捉え、自らの生活と関連付けたり、生活や社会における文字や書の働きについて考えたりする活動の充実を図ること。 ③上記について、次の学びにつながるよう、生徒に振り返らせること。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点及びその趣旨は、各科目の「学びに向かう力、人間性等」に関する目標の中から、観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分を、その内容として整理していることに留意することが大切である。

次の表は、芸術科及び各科目の目標に対応する「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点の趣旨を示したものである。

【芸術における「学びに向かう力、人間性等」に関する目標】			
生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。			
【各科目における「学びに向かう力、人間性等」に関する目標】			
音楽Ⅰ	美術Ⅰ	工芸Ⅰ	書道Ⅰ
主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	主体的に工芸の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	主体的に書の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
【各科目における評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨】			
主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

次に、評価規準の作成と評価のポイントについて説明する。

各学校では、評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨に基づき、各科目の目標に対する内容のまとまり（題材及び単元）ごとの評価規準を作成することとなるが、その際、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面、②「①」の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面について評価できるように、評価規準を設定することが大切である。

なお、上記の「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨における、「表現及び鑑賞の学習活動（音楽Ⅰ）」、「幅広い創造活動（美術Ⅰ、工芸Ⅰ）」、「表現及び鑑賞の幅広い活動（書道Ⅰ）」は、内容のまとまり（題材及び単元）における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指していることから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成においても、内容のまとまり（題材及び単元）ごとの具体的な活動を組み入れることが重要である。

※詳細については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照。

2 指導と評価の計画例

(1) 音楽 I の計画例

ア 題材名

「なぜ人は音を繰り返すのか?～『ミニマル・ミュージック』の楽しみ」

イ 内容のまとめ

「A 表現」(3)創作 及び〔共通事項〕(1)

「B 鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

ウ 使用教材

多様な「繰り返し」をもつ音楽	ミニマル・ミュージック (S.ライヒの作品より)
<ul style="list-style-type: none"> ・交響曲第6番「田園」より (L.v. ベートーヴェン) ・ガムラン (インドネシアの伝統音楽) ・「ゴジラのテーマ」(伊福部昭) ・「風の谷のナウシカ」より (久石譲) ・「虹」(電気グルーヴ) <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Clapping Music ・Piano Phase ・Duet for Two Solo Violins and String Ensemble ・Tokyo / Vermont Counterpoint ・Electric Counterpoint ・Music for Mallet Instruments, Voices, and Organ ・Music for 18 musicians <p style="text-align: right;">など</p>

本題材では、生徒に「音楽における繰り返し」について興味・関心をもたせるために、多様なスタイルの「繰り返し」を特徴とする音楽を教材として扱うことを想定している。また、ミニマル・ミュージックにおいても、シンプルなものから複雑なテクスチャをもつものまで幅広く用意し、生徒の実態に応じて扱う教材を適宜選択することを想定している。

エ 題材の目標

○ 知識及び技能

音を連ねたり重ねたりしたときの響き及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解したり、ミニマル・ミュージックの曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解したりするとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付ける。

(「A表現」(3)イ、ウ(ア)、 「B鑑賞」(1)イ(ア)、及び〔共通事項〕(1)イ)

○ 思考力、判断力、表現力等

構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。

(「A表現」(3)ア、 「B鑑賞」(1)ア(ア)、及び〔共通事項〕(1)ア)



○ 学びに向かう力、人間性等

音楽における繰り返しの効果に関心をもち、主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

オ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知① 音を連ねたり重ねたりしたときの響きや構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。(創作)</p> <p>技 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。(創作)</p> <p>知② ミニマル・ミュージックの曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p>	<p>思① 構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。(創作)</p> <p>思② 構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p>態 音楽における繰り返しの効果に関心をもち、主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(創作・鑑賞)</p>

カ 題材の指導と評価の計画（7時間） 評価がBとなる生徒の姿の例

学習課題：ミニマル・ミュージックの鑑賞とその特徴を生かした創作活動に取り組む				
時	○ねらい・学習活動 (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
1	<p>○音楽における「繰り返し」に注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「繰り返し」を特徴とする音楽をいくつか聴き、共通点を捉え、その効果について考える。 ・題材を貫く問い「なぜ人は音を繰り返すのか？」に触れ、学習の全体像を捉える。 			
2	<p>○ミニマル・ミュージックを聴き、特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの作品を聴き、ミニマル・ミュージックの特徴と、繰り返しの効果について整理する。 			
3	<p>○創作のイメージをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーテーションソフト等を用いて、指定されたモチーフを基に反復させたり、変化させたりして、創作活動のイメージをもつ。 <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>①モチーフの例 ②モチーフを反復した例</p>  <p>③モチーフを半拍ずらして重ねた例 ④モチーフの連なりを変化させて重ねた例</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージについて、アイディアシートを作成する。 			
4 (本時)	<p>○表したいイメージを具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したアイディアシートの内容を基に、グループでの交流や、生成AIとのやり取りを通じて、表したいイメージや音楽の特徴等について具体化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ミニマル・ミュージックの特徴について、知覚したことと感受したことを関わらせながら整理した上で、表したいイメージと関わらせて、モチーフに対して反復・変化・対照などの手法をどのように活用して音楽をつくるかについて、おおむね妥当な内容を書いている。(ワークシート)</p> </div>			
5・6	<p>○楽譜として可視化するためにノーテーションソフト等を用い、音楽で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイディアシートを踏まえ、表したいイメージに合うように、試行錯誤して創作を進める。 ・創作の様々な可能性に触れながら、グループで作品を発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>音を連ねたり重ねたりしたときの響きや構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、アイディアシートに記述したイメージを基に反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくっている。(ワークシート、作品)</p> </div>			

7	<p>ミニマル・ミュージックを鑑賞して感受した曲想や表現上の効果と、知覚した要素の働きとの関わりについて、おおむね妥当な内容を記述している。(ワークシート)</p>			
	<p>○ミニマル・ミュージックを聴き、学習全体を振り返る。 ・これまでの学習を生かして、楽曲を聴き味わう。 ・学習テーマについて、「ミニマル・ミュージックの魅力はどのようなものか?」「音楽における『繰り返し』の最も重要な意味は何か?」という視点から、自分なりの考えを整理する。</p>	知②	思②	
	<p>反復、変化、対照といった楽曲の構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、ミニマル・ミュージックのよさや美しさについて、おおむね妥当な内容を記述している。(ワークシート)</p>			態
	<p>音楽における繰り返しの効果に関心をもちながら、創作と鑑賞の学習課題に対し粘り強く取り組み組んだり、自己の学習を調整したりするとともに、他者との関わりの中で学習活動に取り組もうとしている。(観察、ワークシート)</p>			

※表の矢印(↓)では、生徒の学習活動の状況を観察などによって継続的に見取り、それぞれの評価を記録に残す場面で総括的に評価する。

キ 学習指導案 (4時間目 / 7時間中)

本時の目標：対話的な学習活動を通して、表したいイメージについて具体化する。		
過程	○内容 ・学習活動	●指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	<p>○本時の学習の見通しをもつ。 ・ワークシートや振り返りシートを確認する。 ・前時に提示された本題材の学習課題を確認するとともに、本時の目標を捉える。</p>	<p>●前時に聴いた音楽に再度触れるなどして学びのつながりを意識させた上で本時の学習に見通しがもてるようにする。</p>
展開 35分	<p>問い：表したいイメージを表現するには、どのような工夫が必要だろうか？</p> <p>○工夫する内容について、具体的に考える。 ・前時に記入したアイデアシートを基に、表したいイメージの表現に向けて、どのような工夫が考えられるか整理する。</p>	<p>●テンポ、強弱、構成等、どういった要素に対して工夫を加えることができるのか、具体的に考えられるよう、ワークシート等を工夫する。 ●言葉で記入するだけでなく、実際に音で確かめながら進められるよう配慮する。</p>
	<p>問い：他にはどのような工夫が考えられるだろうか？</p> <p>○アイデアシートの内容について交流し、考えを広げる。 ・表したいイメージに対してどのような工夫が考えられるか、生成 AI を用いて多様な考えを収集する。 ・グループごとにアイデアシートを交流し、表したいイメージと工夫の内容との関わりなどについて、助言し合う。</p>	<p>●生徒が一人では思いつかなかったアイデアや、音にして確かめてみたい内容等を記録に残すなど、次の学習に生かす記録となるように促す。 ●指示文(プロンプト)の記録は、クラウド上のワークシートに貼り付けるなどし、必要に応じて生徒の取組状況を把握する。</p>
まとめ 10分	<p>○本時の学習を振り返る。 ・交流した内容を基に、自身のアイデアシートを整理する。 ・ワークシートに本時の振り返りを記入し、本時の取組を振り返るとともに、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◆思①<ワークシート> ●次時以降も様々な可能性を試しながら創作することができるよう、本時に得たアイデアはワークシートに残しておくように指導する。</p>

ク 学習の進め方や学習評価の工夫

○「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価に関するワークシート等の工夫

なぜ人は音を繰り返すのか?～「ミニマルミュージック」の楽しみ

学習の振り返り	わかったこと、 できるようになったこと など	次回頑張りたいこと など	「音楽における繰り返し」にはど のような効果があるだろう?
第1時			
第2時			
第3時			
第4時			
第5時			
第6時			
第7時	学んだことを振り返り、できるようになったことや、これからの学習や生活に活かしたいことなどを書こう		

- ・ワークシートに「学習の振り返り」の欄を設け、各時間における自己の学習を振り返り、自らのよかった点や改善点、さらに、次の学習に見通しをもって取り組めるような内容で記述するよう指導する。
- ・本題材における評価規準において、「本題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄」として、「音楽における繰り返しの効果」を位置付けている。このことを踏まえ、創作と鑑賞の活動を通して「繰り返しの効果」に注目しながら各自の学習を振り返り、見通しをもって取り組むための工夫の一つとして、ワークシートに、各時間において「音楽における繰り返しの効果」についてまとめる欄を設けることなどが考えられる。

●学習の振り返り

	わかったこと、 できるようになったこと など	次回頑張りたいこと など	「音楽における繰り返し」にはど のような効果があるだろう?
第1時			
第2時			

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体例

「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・各時の学習活動における生徒の活動の様子、発言、ワークシートの記述内容等から、生徒が知識及び技能を得たり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいる様子や、自らの学習を調整しながら学習を進めようとしている様子が伺える。
「十分満足できる」状況(A)と判断する例	<ul style="list-style-type: none"> ・評価(B)に加え、表したいイメージに合うように試行錯誤して創作を進める場面で、周囲の意見に耳を傾けながら様々な要素に工夫を加えることを試みたり、活動を通して表したいイメージを更新して一層具体化しようとしたりするなど、自ら学習のねらいをもって取り組んでいる様子が伺える。 ・ワークシートにおいて、創作と鑑賞の学習活動を関連させながら、本題材の学習課題である「音楽における繰り返しの効果」を自分事として捉え、自分の考えについての具体的な記述を積み重ねる中で、自らの学習状況を把握するとともに、自己の学習を調整しながら取り組んでいる状況等を見取ることができる。
「努力を要する」状況(C)と判断する生徒への働きかけの例	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の第4時における「表したいイメージを具体化する学習活動」において、活動が、自分の表したいイメージを具現化することに向かっていない生徒に関しては、それまでのワークシートの記述に基づいて対話したり、工夫の対象となる要素を具体的に挙げて例を示したりして、イメージに基づいて工夫できそうな内容を考えさせたり、自分の思いに気付かせたりしながら、学習の進め方等について見通しがもてるよう支援する。 ・ワークシートの「学習の振り返り」を記述する際に、適正な自己評価ができていない生徒に対しては、本時の学習のねらいに沿って、振り返る内容を確認させ、本時の活動の様子について質問したり、その時間のワークシートへの記述等を見直すように助言したりするなどして、ねらいに沿った振り返りができるよう支援する。

(2) 美術 I の計画例

ア 題材名

「文房具スケッチ」

イ 内容のまとめ

「A 表現」(1) 絵画・彫刻、「B 鑑賞」(1) 鑑賞及び〔共通事項〕(1)

ウ 使用教材

教科書、画用紙 (B4)、鉛筆 (2H、HB、4B)

エ 題材の目標

○ 知識及び技能

- ・遠近法の特徴を基に、様式で捉えることを理解する。(〔共通事項〕(1)イ)
- ・意図に応じて鉛筆の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表す技能を身に付ける。(A表現(1)イ(ア)(イ))

○ 思考力、判断力、表現力等

- ・遠近法から感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、物体のもつ形体や構成について考え、創造的な表現の構想を練る。(A表現(1)ア(ア)(イ))
- ・文房具のもつ機能や美しさを感じ取り、その働きについて考え、見方や感じ方を深める。(B鑑賞イ(ア))

○ 学びに向かう力、人間性等

- ・文房具のスケッチに関心をもち、主体的に絵画の表現の創造活動に取り組む。
- ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、生活の中の美術の働きについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組む。

オ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 遠近法の特徴を基に様式で捉えることを理解している。 技 意図に応じて鉛筆の特性を生かし、表現方法を創意工夫して、創造的に表している。	発 遠近法から感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、物体のもつ形体や構成について考え、創造的な表現の構想を練っている。 鑑 文房具のもつ機能や美しさを感じ取り、その働きについて考え、見方や感じ方を深めている。	態表 文房具のスケッチに関心をもち、主体的に絵画の表現の創造活動に取り組もうとしている。 態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、生活の中の美術の働きについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

カ 題材の指導と評価の計画 (16 時間) 評価が B となる生徒の姿の例

次 【時間】	ねらい (「○」)、学習活動 (「・」) (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		指導に生かす評価		記録に残す評価
		知	思	態
1～3 【3時間】	鉛筆削りと用具の用法 ○「鉛筆削り」の作業を通して文房具に関心をもつ。 ・カッターナイフの正しい使い方を理解し、鉛筆を削る。 ・完成形をイメージした上で、その形に近づくよう考えながら仕上げる。	技		態表
		技 完成形のイメージをもち、適切にカッターナイフを使用している。		
		態表 用具としての鉛筆の特徴を理解し、美しい仕上がりになるよう主体的に取り組もうとしている。		

<p>4～8 【5時間】</p>	<p>幾何形体（立方体、直方体、円筒）のデッサン ○遠近法の理解を通して、美術に対する見方や感じ方を深める。 ・遠近法について理解し、幾何形体を立体的に描く。 ・遠近法、幾何形体を用いて、身の回りの物を立体的に描く。</p>	<p>知 ・ 技</p>	<p>発</p>	<p>態表</p>
<p>知 遠近法を理解している。 技 遠近法を用いて描くことができている。</p>				
<p>発 幾何形体を用いて身の回りのものを立体的に構成している。</p>				
<p>態表 幾何形体の形を正確に捉えられるよう、観察し表現しようとしている。</p>				
<p>9～14 【6時間】</p>	<p>文房具スケッチ ○身近にある文房具を見つめ、デッサンし、造形的なよさや美しさを感じ取る。 ・身近な文房具をバランスよく描く。 ・細部、陰影、質感を、鉛筆を使い分けながら表現する。</p>	<p>技</p>	<p>発</p>	<p>態表</p>
<p>技 文房具のバランスや陰影を、鉛筆を使い分けながら創造的に表している。</p>				
<p>発 デザインの意図について、他者に伝わるよう言葉や図を用いて表現することができる。</p>				
<p>態表 立体的に表現できるよう、主体的に表現活動に取り組もうとしている。</p>				
<p>15～16 【2時間】</p>	<p>作品展示と鑑賞 ○PR文の作成と展示の工夫 ・文房具のデザインについて観察し、他者に伝わるようPRする。 ・他者の作品を鑑賞し、気付いたことをコメントカードにまとめる</p>		<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>
<p>鑑 他者の表現から造形的なよさを感じ取っている。</p>				
<p>態鑑 美術的な見方や感じ方を深めようと主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている。</p>				

* 主体的に学習に取り組む態度の評価について

評価規準、Aの生徒の具体例(◎)、Cの生徒への手立て(■)、Aと判断できる状況

態表 文房具のスケッチに関心をもち、主体的に絵画の表現の創造活動に取り組もうとしている。

◎ 写実的な表現に近付けるよう、モチーフをよく観察し、細部まで描き出すとともに、モチーフの色や質感、光を表現できるよう、鉛筆や筆圧を使い分け、練り消しゴムを適切に用いて効果的な表現を行うことができている。

■ タブレットでモチーフを撮影し比較することで、バランスの修正を行えることに気付かせる。明暗の差を付けることで立体的な表現になるよう各部分における鉛筆の使い分けと練り消しゴムの使い方の例を示す。

態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、美術的な見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

◎ 各作品について作者の意図や工夫を理解しようとしながら鑑賞を行い、コメントカードを通じて絵画表現の理解を深めるとともに、他者への思いやりをもって自分の言葉で表現することができる。

■ 作品の見え方だけではなく、自己の作品や文章、構図と比べながら鑑賞をする活動を通して、作者の意図や工夫した部分を見付けさせる。

キ 学習指導案（16 時間目 / 16 時間中）

学習課題：相互鑑賞と他者評価		
<p>本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自身の制作を通じて得たスケッチの知識や経験から、他者の作品のよさや意図について考察することで、鉛筆を使った絵画表現について理解を深める。 ○ コメントカードの作成を通じて、他クラスの生徒と交流するとともに、主体的に作品のよさについて文章で表現する活動を通じて、他者の作品への関心を深める。 		
過程・時間	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・投票の仕方、コメントカードの記入について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投票する作品を選ぶ観点について確認する。
展開（42分）	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞しながら投票する。 ・コメントカードを記入し、封筒に入れる。 ・自己の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチの観点を確認する。 ・PRについては、イラストやフォントなどの見栄えのみで判断するのではなく、内容や伝え方の工夫について着目させる。
<p>●スケッチ・PRの投票</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の作品制作における学びや気づきを生かし、他者の作品のよさを見つけて選択させるようにする。 ・それぞれ 10 作品を選択し、配付した用紙に番号を記入し投票する。 ・自分の作品を選択してもよい。 ・同じ作品を、スケッチ及び PR の両方で選択することも可とする。 <p>●コメントカードの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番号指定 2 枚、指定なし 2 枚のカードを記入する。 ・自分が賞って嬉しいコメント（よい部分や努力や工夫が見られる部分）を書く。 ・書き終えたカードは、作品横にある封筒に入れる。 <p>●振り返りの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を通じて描く力が向上したか、身の回りにあるデザインに対する意識が変化したかについて振り返り、ワークシートに記入する。 		
<p>鑑 作品のよさや工夫を主体的に見出して投票したりコメントカードに記入したりすることができている。振り返りを通じて自身の成長やデザインの意義について気づきを得ることができている。</p>		
作品・用紙の回収（3分）	<ul style="list-style-type: none"> ・机上の作品・封筒・用紙を整理し提出する。 	

ク 学習の進め方や学習評価の工夫

○ 鑑賞活動における生成 AI の活用例

芸術（美術）における生成 AI の活用については、主題を生成する際の構想を補助する手段として利用することや、鑑賞活動において、作品に対する理解を深める場面で活用することが考えられる。

以下に示すのは、鑑賞活動における生成 AI 活用の具体例である。この事例では、制作した抽象彫刻作品を授業の最後に、生徒それぞれがプレゼンテーションソフトを使ってまとめる際、生徒自身が作成したポエムと、生成 AI が作成したポエムを併記することにより、鑑賞の表現を深めることをねらいとしている。

○ 生成 AI 活用の具体例（題材名：抽象彫刻制作）

指導計画（10 時間）

○学習内容・学習活動	知・技	思	態
①作品の鑑賞（1 時間） ・「抽象」という概念を考え、過去の作品から作者の表現の意図や工夫について考え、見方や感じ方を深める。		鑑 ↓	態鑑 ↓
②発想や構想（4 時間） ・主題を生成し、構想を練る。同時にポエムも考え、自らの創造的な表現を追求する	技 ↓	発 ↓	態表 ↓
③制作（3 時間） ・表現方法を創意工夫し、創造的に表す。			
④生成 AI の活用（1 時間） ・完成した作品を撮影し、生成 AI を用いてポエムを作成した後、自らのポエムとともにスライドに掲載する。なお、②・③・④の境は作らず、発想、作品制作、ポエムの制作、スライド作成を自分のペースに合わせて同時進行で行う。	↓ 技	↓ 発	↓ 態表
⑤作品の鑑賞（1 時間） ・スライドを参考に作品を鑑賞し、他者の表現の工夫について考え、見方や感じ方を深める。	知	↓ 鑑	↓ 態鑑

造形活動における抽象は、具象的な再現を離れ、形態や質感、空間性そのものを探求する営みである。これをポエムとして言語化することにより、論理的説明にとどまらず、比喩や感覚的表現を通して抽象の本質を多角的に捉えることを目的としている。

また、造形活動と言語活動とを往還させることにより、作品理解を深化させるとともに、自己の制作意図を他者に伝える新たな言語感覚を養うことを意図している。詩的表現に取り組むことで、制作そのものに加え、言葉の選択においても抽象の感覚を意識させ、総合的に造形における見方・考え方の涵養を目指す活動である。

さらに、本事例においては、上記計画の④において生徒が作成したポエムと生成 AI が作成したポエムを比較する活動を行っている。生成 AI による文章生成の正確性や

特徴を実際に比較することで、生成 AI が得意とする表現と、その限界を具体的に実感することにより、生成 AI を単なる道具として受け入れるのではなく、その性質を理解した上で主体的に活用できる能力を育成することをねらいとしている。

彫刻を題材に作成した生徒と生成 AI のポエムの比較		
生徒のポエム		生成 AI のポエム
「静けさ」 まっさらでたしかに静っていたために 遠くへしまった なくして寂けり 天晴にしてた時に 真面目に大喧嘩にまでなると あんなにたたくてやらせても なしたことをささおれりやうし 思い出すのがもったいないくらいいぬいぬせも 綺麗になってお掃除がていく 新しいのはすぐ中に入るけど 懐かしいのきく静けさなんて真面目からいぬいぬいぬ 天付れ静けさがさしたって静かよれぬい		「静けさ」 静けさ ゆっくりと上るも静めしなく 遠くへ引かれながらも どこか寂けているように思えた 静けさは静けさでなく、 けれど静かに何かを覚えていた まるで静けさを覚えておうちに 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静 静けさには遠くも静

上記の例では、生徒は自由な発想に基づき独自の表現を行うのに対し、生成 AI は、指示文（プロンプト）で「この彫刻作品からポエムを書いて」など、特に条件を指定しない限り、彫刻作品のもつ色彩や形状など全体の要素を忠実に反映した表現を行っている。このことについて、生徒は、1枚の作品からポエムを作る際の生成 AI の視点を理解すると同時に、発想力や表現力等、改めて人間の創造性の素晴らしさを実感することなどが考えられる。

○ 生徒による振り返りの一部

生成 AI のポエムは、彫刻に表れている形や色、大きさから得られる全ての情報と、どこからかもってきた物語をリンクさせているだけだと思ったので、まだ人間の能力の全てをもっているのではないと感じました。人間が考えたポエムの方が、発想・着眼点・納得させる力の全てにおいて、勝っていることが分かってよかったです。	最終的には、美術的な表現活動にとどまらず、「人間の創造性」、「人間の尊厳」にアプローチしたまとめを行う。
--	--

本事例のように、制作活動と言語表現、さらに生成 AI と比較する学習を通じて、生徒に抽象の表現を理解させたり、人間の創造性への自覚を促すなど、鑑賞の見方や感じ方を深めることができる。

(3) 書道 I の計画例

ア 単元名

「隸書之美を味わおう」

イ 内容のまとめ

「A 表現」(2)漢字の書及び〔共通事項〕(1)

「B 鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)

ウ 使用教材

法帖（曹全碑）

エ 単元の目標

○ 知識及び技能

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。（「A 表現」(2)イ(1)）
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。（「B 鑑賞」(1)イ(ア)）
- ・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。（「A 表現」(2)ウ(イ)）

○ 思考力、判断力、表現力等

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。（「A 表現」(2)ア(ア)）
- ・生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを味わって捉える。（「B 鑑賞」(1)ア(イ)）

○ 学びに向かう力、人間性等

- ・隸書に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い表現の活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
- ・隸書よさや美しさを感じ、生活や社会における書の効用について考えながら、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

オ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>知表 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>知鑑 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</p> <p>技 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。</p>	<p>思表 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>思鑑 生活や社会における書の効用について考え、書よさや美しさを感じ、味わって捉えている。</p> <p>評価規準の文末表現については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術(書道)】p86を参照</p>	<p>態表 隸書に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い表現の活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 隸書よさや美しさを感じ、主体的に幅広い鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p> <p>学習指導要領の「3 内容の取扱い(1)」に鑑み複合単元としたことから、思表、思鑑、態表、態鑑を網羅している。</p>

カ 単元の指導と評価の計画（6時間） 評価がBとなる生徒の姿の例

次 【時間】	ねらい、学習活動等	評価の観点		
		知	思	態
1～2 【2時間】	○隸書について考える ・隸書が社会に定着している理由について考える。 ・隸書の用筆・運筆、字形の特徴について理解する。	◎ (知鑑)	◎ (思鑑)	◎ (態表) ◎ (態鑑)
3～4 【2時間】	○古典から学ぶ ・曹全碑の臨書 ・曹全碑の臨書作品の鑑賞 曹全碑の臨書を通して、隸書と用筆・運筆との関わりを実感的に理解している。 曹全碑の特徴を踏まえ、用筆・運筆、字形、全体の構成を構想し、工夫しているとともに、自身の考えを適切に言語化し、グループ活動につなげている。	● (知表)	● (思表)	◎ (態表) ◎ (態鑑)
5～6 【2時間】 (本時)	○生活の中に隸書を生かす。 ・思い出の写真に隸書の文字を添える。 曹全碑の臨書を通して身に付けた、隸書の線質、字形、構成の表現の技能を生かし、自身の表現意図に基づいて表している。 曹全碑の臨書を通して獲得した知識や技能を生かし、自身の意図、構想に基づく表現をするために、<u>表現を工夫して効果的に表すことに粘り強く取り組もうとしている。</u> ・作品の鑑賞 鑑賞活動を通して、隸書の特質を踏まえ、線質、字形、構成等との要素と表現効果や風趣との関わりについて実感をもって理解している。 鑑賞活動を通して、自他の作品について、見方・考え方を働かせて隸書のよさや美しさを実感をもって感受し、生活や社会における隸書の効用について考えるとともに、自身の考えを適切に言語化している。 ・単元の振り返り 見方・考え方を働かせ、獲得した知識や技能を生かして鑑賞活動に取り組む中で、<u>隸書のよさや美しさを実感し、隸書の価値について粘り強く考えようとしている。</u>	● (技能)		● (態表)
		● (知鑑)	● (思鑑)	● (態鑑)

キ 学習指導案(5、6時間目／6時間中)

学習課題：隸書による創作						
本時の目標：作品制作と作品鑑賞を通して、生活や社会における隸書の価値を理解する。						
過程	時間	学習活動等	指導上の留意点	評価の方法		
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価		
				知	思	態
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、隸書のよさや美しさ、隸書の用筆・運筆について確認する。 本時のねらい、学習活動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> スライドの入力事項を確認する。 作品例を示し、制作のイメージを湧かせる。 			
展開	75分	<p>【作品制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の思い出の写真を選び、その写真に添える隸書の文字を考える。 ICT(書法字典アプリケーション)を活用して草稿を作成する。余白や配字等を考え、構想を練る。 草稿に基づき、臨書を通して身に付けた表現の技能を生かして作品を制作し、出来上がった作品を写真の上に貼り付ける。 <p>【制作の振り返り】</p> <ol style="list-style-type: none"> 隸書の用筆、運筆に基づいて作品制作できたか。 隸書の創作を通じて実感した隸書の良さや魅力について。 <p>【相互鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 創作作品を互いに鑑賞し、意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 曹全碑の臨書を通して身に付けた、隸書の線質、字形、構成の表現の技能を生かせるように個に応じた支援を行う。 隸書の特質に関する要素と表現効果、風趣との関わりや社会における隸書の効用について実感的に理解し、適切に言語化できるようグループや個に応じた支援を行う。 	作品 ●		作品制作 ●
まとめ	20分	<p>【単元のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隸書の価値、生活や社会における隸書の効用について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 隸書の価値について深く考えられるよう、これまでの学習を通して社会や生活とのつながりについて考えさせる。 	Google スライド ●	Google スライド ●	Google スライド ●

ク 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 「表現」における主体的に学習に取り組む態度 **態表**

本事例の「表現」における「主体的に学習に取り組む態度」の評価の対象となる活動は、「作品制作」である。具体的には、生徒が自身の表現の意図に基づき、隷書の臨書活動を通して獲得した知識及び技能を活用し、見方・考え方を働かせながら粘り強く表現しようとしているかについて、作品制作への取り組み状況等から見取って評価を行う。

(イ) 「鑑賞」における主体的に学習に取り組む態度 **態鑑**

本事例の「鑑賞」における「主体的に学習に取り組む態度」の評価の対象となる活動は、「単元のまとめ」である。具体的には隷書のよさや美しさを感じ、隷書の価値について深く捉え、見方・考え方を働かせながら粘り強く考えようとしているかをワークシート(Google スライド)の記述内容や鑑賞活動への取組状況等から見取って評価を行う。

○「おおむね満足できる」状況(B)の例	
◎「十分満足できる」状況(A)の例	
◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て	
態表	<p>○ 隷書の学習を通して獲得した知識や技能を、自身の意図、構想に基づく表現をするために、書の見方・考え方を働かせて効果的に活用し、粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◎ 上記に加えて、自身の表現の意図、構想を実現するために隷書の学習を通して獲得した知識や技能を、自身の表現の意図、構想を実現するために効果的に生かして表すことについて深く考え、広い視野から粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◆ 隷書の特質について振り返らせ、作品例を挙げたり範書を示したりしながら、自身の表現の意図、構想に基づいた表現の実現に近付けられるように支援する。</p>
態鑑	<p>○ 書の見方・考え方を働かせ、隷書の学習を通して獲得した知識や技能を活用して鑑賞活動に取り組み、隷書のよさや美しさを感じ、隷書の価値について、粘り強く主体的に考えようとしている。</p> <p>◎ 上記に加えて、隷書の価値について生活や社会との関わりや自身の人生とも関連させながら広い視野で捉え、深く考えようとしている。</p> <p>◆ 自身の取組の経緯を振り返らせ、隷書の学習を通して獲得した知識や技能を活用し、隷書の価値、生活や社会における隷書の効用について、粘り強く捉え直したりすることができるように支援する。</p>

学習の進め方や学習評価の工夫については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術(書道)】p60、63を参照